

平成 30 年 3 月 5 日

京口門だより No. 53

3 月に入り桃の節句を迎えて暖かい日もありますが、今年はまだまだ寒さが抜けきらない様子です。「きさらぎや朝戸に匂ふ嶺の雪」(相馬遷子)

暖かくなると花粉症の方にとっては悩ましい季節です。2~3 月はスギ花粉、4~5 月はヒノキの花粉と続きます。このたよりでも以前に (No. 4) 触れましたが、漢方の花粉症の薬も副作用が少なくよく効くものはいくつかあります。お困りの方はお尋ねください。

さて、最近何人かの 90 歳台の患者さんを診せていただいて気づいたことは、高齢者では心臓の働きが弱っていることに充分注意をしなければならないし、心臓の働きを良くすることができれば、高齢者の方も比較的元気に過ごせるようになると思われれます。何か当たり前の漠然とした言い方ですが、医学的な用語でいえば慢性心不全の状態、あるいはかつては潜在性心不全(はっきりと心不全とは言いがたい状態)と言われたこともある病状のことです。心不全というとは何か重篤な病気を思い浮かべますが、いわゆる急性心不全といって呼吸困難や浮腫をきたす重篤な状態は、直ちに入院治療が必要ですが、慢性心不全というのは年余にわたって少しずつ心不全状態をきたした場合をいいます。具体的には長年の高血圧症をわずらっていて、少しずつ心臓に負担がかかり、心臓の血液を送り出す力が弱った状態とか、かつて心筋梗塞をわずらって心臓のポンプ機能が弱った状態が続いているなどを指します。

そのような慢性心不全の状態は、少し無理な動作をすると息苦しくなったり、下肢にムクミが出てきたり、夜になると尿の回数が増えてくる(男性では前立腺肥大による場合もある)などの症状が現れてきます。高齢者になるとこのような心不全の結果を、歳をとったせいで体力も衰えてきたと勘違いすることがあります。最近では心不全によって自律神経やホルモンのバランスの乱れを示すという BNP(脳性利尿ペプチド)を測定して、心臓のポンプ力の程度をみることができます。

漢方薬にはこうした軽症のまた慢性心不全状態に有効な薬があります。高齢者では強力な心臓の現代医薬品で副作用などに悩まされながら治療するより、漢方薬でじっくりと治療に取りくんでほしいと思います。

